

# 処方された薬の保管・管理について

寒い冬も本番を迎え、  
外も家の中も乾燥が気になり、  
それによってインフルエンザを  
初めとした冬特有の症状を訴える  
方も多くなってきたと思います。

今回は、病院や薬局などでもらった薬の自宅での保管と管理上の注意についてのお話しをさせていただきます。

そもそも薬には、食品などにもある賞味期限と同じような「使用期限」というものがあります。

食品の賞味期限はその日までは美味しくいただけるという期限となりますが、薬の使用期限は、ある定められた条件で保管していれば、その期限までは効き目が保障されるという期限になります。

ほとんどの薬の使用期限は、薬が製造されてから3年くらいに設定されています。



## では、自宅ではどのような保管方法が良いのでしょうか？

多くの坐薬やインスリン注射剤のように冷所に保管しなければならない薬以外は、原則的には高温多湿と過度な光を避け、温度・湿度共に一定であることが、最適な保管環境となります。

室内の温度が高くなると、薬の効果が落ちてしまうことがあり、また湿度が高くなると溶けてしまったり、色が変わったりしてしまう薬もあります。また、光によって効果が落ちたり、色が変わってしまう薬もあります。



## よくお菓子等の空き缶に保管している薬を目にします！

お菓子等もやはり湿気を避けて保管したほうが良いため、同じような条件で保管ができるという理由で、使っていると思います。

光や湿気に関してはこの保管で良いと思いますが、火を使う場所付近や、暖房が直接当たるような場所に置くことは好ましくありません。



## 食器棚の下部や、台所の棚のうち水道管に近くない場所など、あまり温度が変わらない場所が良いとされています

お菓子等の缶に保管することで特に小さいお子さんのいる家庭などではお菓子と間違えて口にしてしまわないように注意してください。



喘息の発作の時に使用する吸入の薬や、狭心症による胸の痛みを使用する薬など、薬の種類によっては、常に手の届くところにおいておかないと、いざという時に使用できず症状を悪化させてしまう薬もあるため、注意が必要です。

## 薬の管理方法として

- ご自分で包装シートから薬を出し、プラスチックのケースなどに入れて保管していることを見ることがあります。包装シートは薬を湿気や光から守る役割もあるため、そこから出してしまうことにより、溶けてしまったり変色してしまったりすることがあります。
- また包装シートをはさみなどで切り、一回分毎に分けて保管管理することは、**包装シートのまま飲んでしまう**という可能性があるため、非常に危険です。実際に包装シートのまま飲んでしまい、食道に突き刺さったり、腸に穴があいてしまう事例も報告されているためこのような保管はしないようにしてください。

## 薬の保管方法は様々です。

薬の形によっても異なりますので、もし今の保管方法に不安や疑問があれば遠慮なく薬剤師にお聞きください。

